

本市における

**「子どもから大人まで読書活動を
推進するための取組」**

～「読書」で人を育てるために～

(提 言)



平成29年3月7日

十和田市社会教育委員の会議

十和田市社会教育委員の会議は、平成 27 年 7 月 22 日、協議していく内容を本市における「子どもから大人まで読書活動を推進するための取組～読書で人を育てるために～」について、平成 29 年度までの会議で検討していくことで合意した。

十和田市社会教育委員の会議審議経過

- 平成 27 年 7 月 22 日（水） 第 1 回社会教育委員の会議
- ・ 諮問内容の決定
 - ・ 自由討議
- 平成 27 年 11 月 9 日（月） 第 2 回社会教育委員の会議
- ・ 十和田市民図書館協議会と合同会議
 - ・ 自由討議
- 平成 28 年 1 月 26 日（火） 第 3 回社会教育委員の会議
- ・ 自由討議
- 平成 28 年 3 月 9 日（水） 第 4 回社会教育委員の会議
- ・ 自由討議
- 平成 28 年 7 月 19 日（火） 第 5 回社会教育委員の会議
- ・ 平成 28 年度の内容（研修・会議）の確認
 - ・ 自由討議
- 平成 28 年 9 月 30 日（金） 第 6 回社会教育委員の会議
- ・ 十和田市教育懇談会へ研修として参加
- 平成 29 年 1 月 30 日（月） 第 7 回社会教育委員の会議
- ・ 提言案のとりまとめ
- 平成 29 年 3 月 7 日（火） 第 8 回社会教育委員の会議
- ・ 提言案の最終検討

以上の審議に基づき、社会教育委員の会議としての結論を得たので、ここに提言いたします。

はじめに

今、社会は様々な多様化し、便利な生活を送られるようになっていきます。それでも人は、一人では生きてはいけません。人とつながり、幸福な人生を送るためにも、豊かな言葉や表現、コミュニケーションが不可欠となっています。

最近の社会全体の課題として、物事を深く考察する力や、自分の思いを言葉で伝える力が低くなっていることがあげられています。こうした力は子どもにも求められていることでもあり、新しい学習指導要領でも充実を図ろうとしていることです。そして、それらの課題を解決する一つの方法として、「読書活動」があると考えます。

十和田市では「第3次十和田市子ども読書活動推進計画」を、平成28年3月に策定されました。これまでの課題を踏まえ、読書環境がますます整備されていくことが期待されます。

しかしながら、「読書離れ」の傾向が進んでいることは、これまでの様々な調査結果が示しているところです。その要因として、携帯電話、インターネット、ゲームなどの様々な情報メディアの著しい発達、普及や生活環境の変化により、読書に親しむ機会が減ること、乳幼児期から読書習慣を身に付けていないことなどが挙げられています。

市内の児童・生徒の実態としても、中学生になると不読率の割合が高くなることから、現在、各家庭や地域、学校では、「読書活動」に力を入れ、読書環境の整備や読書に親しむ時間を確保するように努めています。

このため本会議では、読書活動の推進を通じて、生きる力を育て、人と人が語り合い、つながることを促していくためには、どのような「場」や「仕組み」が必要か、行政としてどのような役割を果たすべきかなどについての方向性をまとめたものであり、それぞれの取組を推進し、連携することで、社会全体の取組として推進されることを期待するものです。

平成29年3月

十和田市社会教育委員の会議

議長 川崎 富康

読書で人を育てるとは

読書は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をよりよく生きていく力を身に付けていく上で欠かせないものです。特に子どもの時期は、大人になるまでの様々な発育の過程において、大きな影響を与えます。

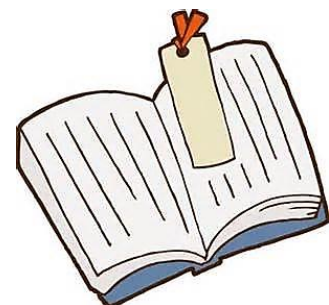
読書は、子どもの旺盛な好奇心に応え、先人の知恵や勇氣、人間の優しさに触れることができます。そして、読書を楽しみながら、広い世界を知り、生きている喜びに満たされ、自分自身に自信をもつようになります。

そこで、子どもにかかわるすべての大人たちが、本を好きになり、読書を楽しみながら豊かな人間性を培うとともに、読書する姿を子どもたちに示し、読書の大切さを伝えていくことは、とても重要なことです。

読書活動を通して、子どもは、「感動する心」を培い、「想像する力」をはぐくむとともに、多くの知識を得たり、多様な文化を理解したりしながら「コミュニケーション能力」を身に付けることができます。

また、大人もそれらを含め、「自らを高める力」を養い、「より豊かな人生」を送る一つの術とすることができます

このように、知的活動の基礎となる自主的な読書活動は、人格の完成と個人の能力の伸長、主体的な社会参画を促すものとして、子どもから大人までが、「生きる力」を養い、将来の「つながりづくり」、「人づくり」にとって重要な要素であると考えます。



読書に親しめる環境づくり

1 家庭において

①保護者について

- ・子どもは、家庭で自由な時間があれば、ゲームが主となりがちである。家庭において、本を読むための環境づくりは、家庭で話し合いながら決めていく必要がある。
- ・家庭に本があり、整理されているということが、本に親しむ気持ちをつくることにつながる。
- ・「読書は勉強」というとらえ方ではなく、本のよさを子どもに伝えていくことが大切である。将来的にその意味を実感できる時がくる。
- ・子どもの頃から本に親しめる環境をつくっていれば、将来、自分の気に入った本を見つけられるようになる。
- ・読書は、自分の中に言葉を蓄えていくことである。その意味を発達段階に応じながら教えていく必要がある。
- ・本をどこで、どの時間で読むか、自分の意志が必要である。そのためにも、読書が大切なことだと教えていく必要がある。
- ・親の言うことを素直に聞ける時期に、本に対する興味をもたせることが大切である。
- ・子どもに本を読んでほしいと思ったら、保護者が本を読んで楽しんでる姿を見せることが大切である。その姿が、本に興味をもたせるきっかけづくりとなる。

②子どもについて

- ・一人で読書することもよいが、友達と本を読んで、その楽しさを分かち合うことができればよい。
- ・本は、調べたいことに関連した様々なことを深く考えたり、詳しく知り得たりすることができる。言葉を知らないと将来的に困ることがあるため、子どもが疑問に感じたことは、本を使って調べる習慣づくりが大切である。

2 学校において

①学級について

- ・いつでも本を読めるように机の中などに1冊は準備しておくことが大切である。
- ・課題などが終わった子どもに読書をさせるなど、短い時間でも本に触れる機会をつくる必要がある。
- ・学級文庫などで様々なジャンルの本を用意しているが、学校では、読書のきっかけづくりとして、子どもが読みたい本を持参してきてもよいことにしている。発達段階に応じながら、読んでいる本の質も幅広くさせていくことも大切である。

②委員会活動について

- ・児童生徒による自主的な図書委員会の活動を通して、本に興味を示すような掲示や図書館の整備を更に進めていく必要がある。
- ・学年ごとに「おすすめ図書」「学校推薦図書」「教科書掲載図書」などのコーナーを設置することが図書室へ足を運ぶことにつながる。
- ・児童生徒だけでは、図書館整備が時間的に難しいこともあるため、図書ボランティアに手伝ってもらいながら進める方法もある。

③学校図書館について

- ・調べ学習に対応できるように必要性の高いものから、資料の準備を少しずつ進めていく必要がある。
- ・図書ボランティアと連携しながら、子どもの居場所づくりにもなるように整備することも大切である。
- ・児童生徒が、図書館に立ち寄りたくなるような季節や行事に合わせた装飾などがあればよい。
- ・県立図書館や市民図書館などの研修会を利用して、学校図書館における疑問や悩みを解決したり、教員や図書委員、ボランティアなどのスキルアップを図ったりすることも必要である。

3 地域において

①市民図書館について

(1) 本の配架・整理について

- ・市民図書館のどこに何の本があるのか分かりにくいいため、書架案内の作成や検索機の利用をより進めた方がよい。
- ・本の整頓が利用促進につながると考える。今後も職員やボランティアと協力しながら書架整頓を行った方がよい。特に、児童室の絵本はこまめな整頓が必要である。

(2) 施設整備について

- ・季節によっては、外の芝生に読書スペースを設けるなど、気持ちよく読書ができる環境を提供する工夫が必要である。
- ・図書館の利用促進のために、アンケートを学校や世代ごとに実施してはどうだろうか。設備や読書環境に寄せられる声を、できることから反映させることが大切である。

(3) 読書ボランティアについて

- ・「読書ボランティア養成講座」などを開催し、読書ボランティアスタッフの拡充と育成を図る必要がある。

(4) 公民館について

- ・子どもも大人も集まる公民館の図書コーナーを充実させてはどうだろうか。読みたいと思える本をそろえるなど、図書館と連携して、セット貸出を行う方法がある。

②市民交流プラザについて

- ・「プレイルーム」や「親子ふれあいスペース」といった子どもの遊び場に、絵本などのコーナーを設置するのはどうか。遊びの合間に絵本にも親しめる機会を親子でとれるようにしたらよい。

読書活動を推進するための取組

1 家庭において

①保護者について

- ・小さい頃からの読み聞かせと中高生の読書は別の問題である。しかし、本に親しませる最初の取組として、読み聞かせは大切なことである。
- ・家庭での読書は、きっかけづくりが必要である。イベントなどに参加したり、話題の本を共有したりするなど、本を読んでよかった、楽しかったと思わせるように、保護者がしかける必要がある。
- ・読書を好きにさせるよりも、本を好きにさせることが大切である。質の高い本を与えることができれば、本に興味をもつきっかけづくりとなる。
- ・絵やタイトルなどでも、子どもが興味をもった本を与えてあげることもきっかけづくりとして大切である。
- ・絵本は、子どもにも大人にもよいものである。特に、「飛び出す絵本」のようなしかけ絵本は、子どもをわくわくさせる。
- ・子どもの成長の中で、保護者は子どもにあまり干渉せず、主体性を伸ばそうとする時期がくる。その頃に、読書についても声かけが少なくなっていくと考えられる。また、子ども自身もスポーツ少年団や習いごとなどで、じっくり本に触れる時間が減ってくる。そのような時期でも、タイミングをとらえて本を薦めてみたり、図書館や本屋に一緒に行ったりするなど、しかけを忘れてはいけない。
- ・保護者が読んだ本のおもしろさを、子どもに伝える機会をつくれればよい。

②子どもについて

- ・マスコミなどで取り上げられている本を購入したり、借りてきたりすることも本へ向かう意識をつくることになる。
- ・図書館のイベントの参加や調べ学習など、友達と一緒に図書館へ出かけることも本に触れ合うよい機会となる。
- ・自分の本だったら、おもしろかったところや疑問に思ったところに線を引きながら読んでみてもよい。
- ・「短い、読みやすい」本を探してみることから始めればよい。

2 学校において

①学級について

- ・学習指導要領にある国語科「読むこと」や「活用」との関連を踏まえた読書活動を推進していく必要がある。
- ・「読むこと」は、思考力を養うことができる。想像し、考えながら読むことが大切である。
- ・授業で扱う教材に関連する本を読ませる「並行読書」を進めるなど、学習でも取り上げながら本に親しむ機会をもつようにさせる。
- ・朝読書や読み聞かせなど、全校で読書に取り組む時間を確保することが大切である。
- ・小学校では、高学年でも紙芝居や読み聞かせを集中して聞いている。この取組は、読書への興味付けとなるため、継続していく必要がある。
- ・小学校において、読み聞かせなどの図書ボランティアを活用することは絵本や本に親しむ時間の確保となり、本に親しむ意識の向上につながる。
- ・読み聞かせには、自分で想像するという楽しさがあり、本を好きになるきっかけづくりとなるため、継続して取り組むことが大切である。

②委員会活動について

- ・児童生徒による自主的な図書委員会の活動を通して、読書を推進する様々な取組（読書貯金、読書賞、おすすめの本の紹介など）を継続していくことが大切である。
- ・「図書館だより」を通して、貸出状況や企画案内などを発信することで、読書への意識が高まってくる。
- ・図書室の本を「朝読書用」として活用するような取組をしてみることもよい。
- ・図書室へ呼び込む工夫が必要である。例えば、図書室の前に布をかけた机を置き、新刊（テレビドラマの原作など）を展示したり、図書室の窓を使ってアピールしたりすることが挙げられる。
- ・季節や行事にちなんだ本を図書室の前に展示することで、本を手に取りやすくなる。

③家庭への啓発について

- ・保護者に対して、本の大切さや必要性を理解してもらうことから子どもたちへの読書推進を図ってみる必要もある。
- ・学校から家庭へ、「子どもと一緒に本を読む時間をとってほしい」とお願いをしている。しかし、保護者も忙しく一緒に本を読む時間をとることは難しいところもある。家庭における読書習慣づくりを継続してお願いしていくことが大切である。
- ・学校からの働きかけとして、時事（毎月第4日曜日の家庭読書の日など）に合わせた呼びかけをし、読書への意識を高めることが大切である。
- ・家庭と連携した取組（家庭読書の日チャレンジカード、読書銀行など）をすることで、地域で取り組む意識を涵養していくことが大切である。
- ・学級だよりなどで、学習と関係している本などを「おすすめ」として紹介する方法もある。

3 地域において

①市民図書館について

(1) PR方法について

- ・子どもから大人まで、分かりやすいパンフレットの作成やイベントなどを実施してPRしてはどうだろうか。町内会の回覧など、図書館の存在や事業を周知することも必要である。
- ・毎月、広報に「図書館ツアー」の案内を出してはどうだろうか。例えば、「本との出会いをつくりませんか」などのキャッチフレーズを入れるなどして、図書館を知ってもらう取組が必要である。
- ・新着図書情報や蔵書検索機能の紹介など、ホームページで紹介されているが、多くの市民に見てもらうためにも、より周知が必要である。
- ・特集を組んだりポップを工夫したり、時代に合ったものを目立たせて見せる必要がある。
- ・図書館の取組を充実させていく必要がある。そのためには、発信が大切である。イベントと関係した本の展示やPRが大切である。
- ・毎月第4日曜日の「家庭読書の日」をより周知し、市全体で盛り上

げる取組が必要である。家庭読書の日に、おすすめの本をPRするなどのイベントをしかける方法もある。

(2) 子どもへの読書活動推進について

- ・毎週土曜日に、図書館で読み聞かせを行っているのは、来館者を増やす意味でよいことである。
- ・子どもが学校で図書館の情報を聞き、図書館を利用したいと言ってきた。自分もそれがきっかけで図書館を利用するようになった。図書館の利用者を増やすには、やはり子どもが鍵である。
- ・学校行事などに図書館の利用を組み込むようにPRし、まず子どもたちを図書館という場所に慣れさせることが大切である。
- ・読み聞かせの際に、学校の子どもたちへ図書館について説明をしてあげると、図書館をより身近に感じると思う。読み聞かせ団体と連携する必要がある。
- ・学校で、一般客に迷惑をかけずに利用するには、休館日の利用が必要となる。事前予約を学校に確認し、利用できるようにする方法もある。
- ・読み聞かせの研修を開催して、学校図書館ボランティアスタッフの拡充とスキルアップを図る必要がある。学校とボランティアがかかわることが、子どもの読書活動推進につながる。
- ・保護者などを対象に、小・中学校の行事などと合わせて、図書館に親子で寄ってもらうような工夫が必要である。
- ・「ビブリオバトル」や「図書館を使った調べる学習コンクール」などは、新しく魅力的な企画なので、学校にその趣旨を説明する機会を設けて、協力をお願いした方がよい。

(3) 中・高校生などへの読書活動推進について

- ・中学生が読む本として、どんな本を薦めたらよいか迷うことがある。言葉が難しくなると読んでいてもつまらなくなるし、言葉を調べることも面倒となるため、読書から離れていくことがある。図書館などで「中学生におすすめの本」などのPRがあれば家庭でも推薦しやすい。
- ・図書館へは、勉強をするために来る学生がいる。直接、図書館の利用にかかわるわけではないが、図書館に親しんでおけば、大人にな

- ってからも来やすいと思うので多目的研修室の開放は大切である。
- ・北里大学の図書館との連携があれば、大学生の利用も増えていくと思う。大学図書館にある資料など、相互の貸し借りは市民へも有効である。

(4) 高齢者への読書活動推進について

- ・図書館は、高齢者の利用者が多い。多くの高齢者に図書館への関心をもたせたいが、PCの使用ができるかどうかも関係してくると思う。そのため、年に4回でも「図書館だより」などのチラシを作成し、高齢者の利用をさらに促進することが必要である。
- ・図書を借りるには、利用者カードが必要となる。高齢者が利用者カードを作る手間を省けるように、公民館の高齢者教室などの集まりに行き、PRも兼ねて利用者カードを作るなどのサービスを行ってはどうか。利用カードがあるだけでも、図書館に来やすくなる。
- ・高齢者向けの大きい活字本などの、幅広い層に対応するような本が少ないと思う。市民の求めている本の把握にもっと力を入れる必要がある。

(5) 公民館について

- ・公民館でも「本のリサイクルフェア」を実施してはどうか。地域に呼びかけることで、本への意識も高まってくる。
- ・子どもたちは、公民館の図書室を勉強のために利用することが多い。公民館でも学習に関係する本をそろえることも大切である。



まとめとして

読書は、一人一人が自立して、かつ、他者とのかかわりを築きながら豊かな人生を生きていくための基盤を形成するものです。読書は目立たず、その効用は普段、目に見えにくいものですが、明らかに自分自身を根底で支える要因の一つになります。

また、読書は多様な社会と密接な関係にあります。社会は、人が人をつながり、ともに支え合うことで成り立っています。その上で不可欠なことは「言葉」であり、より豊かな言葉やイメージによる表現、コミュニケーションの力を養ってくれるのは読書です。これからの社会は、自ら考え判断できる自立した個人の連帯により支えられるものであり、そうした個人の育成と協働性の涵養のために、読書は欠くことのできないものです。

そのため、読書に親しめる環境づくりとして、家庭においては、子どもの発達段階に応じて、読書に対する興味をもたせることが必要です。

学校においては、本が身近にあることや委員会活動における学校図書館の整備などを、図書ボランティアと協力しながら進めていくことも大切です。

地域においては、市民の声を生かした市民図書館の資料の整備や充実を図ることが求められます。

さらに、読書活動を推進するための取組として、家庭においては、「本に出会い・親しむ」ことができるように様々なきっかけづくりが必要になります。

学校においては、「本で調べ、学び・考える」ことを中心に、読書を学習に生かしたり、委員会活動における読書推進の取組を継続したりすることが大切になります。

地域においては、市民図書館が主体となり、「本を楽しみ・伝える」ことをキーワードに各種事業を推進することが望まれます。

また、読書による人づくりを進めるためには、読書の質を高め、同時にそれを支える人たちの育成が重要です。保護者や地域の中で、新たに読書活動を支援できる人材の育成と同時に、より専門知識を備えた読書活動推進の人材育成が求められます。

本は、単に「読まれる」だけではなく、人と人をつなぎ、知的コミュニケーションの起点となり、広く社会の在り方にも影響を与える多様な可能性をもっています。こうした読書の力を幅広い観点から受け止め、生かしていくことが、人づくり、育て、十和田市をより豊かに、住みよい町にしていくために必要なことです。

市民図書館の現状と課題



● 現 状

図書館資料を収集し、整理し、保存して、市民に提供しながら、読書啓発活動、図書館サービス、他団体との連携事業に取り組み、読書活動推進に努めています。結果、館内貸出資料数が増加し、平成 2 8 年度までの館内利用者数 50,000 人、館内貸出冊数 165,000 冊の目標を達成しています。

（単位：人、冊、％）

区 分	開館日数	蔵書数	登録者数	うち新規登録	利用冊数	利用者数
館内一般		92,132	19,438	972	119,668	43,640
館内児童		29,268	1,916	381	53,290	9,183
館外(セット)		15,484			11,400	
計	324	136,884	21,354	1,353	184,358	52,823
H25年度	324	127,954	19,789	968	178,579	48,404
前年度比増減	0	8,930	1,565	385	5,779	4,419
前年度比増減率	0%	7.0%	7.9%	39.8%	3.2%	9.1%

※表中の数字は、3月31日現在(公民館は含まない) セットの利用冊数については、入力貸出時期にずれがあるため、今年度から1施設1回30冊で積算している。児童の登録は15歳を超えると自動的に一般に移行する。

● 課 題

新しい市民図書館が平成 2 7 年 1 月 1 5 日に業務を開始し、多数の市民の皆様にご利用いただいております。平成 2 6 年度は、利用冊数 184,358 冊、利用者数 52,823 人で前年度と比較して増加しております。

しかしながら、実人数につきましては、6,003 人(十和田市民 5,506 人、十和田市以外 497 人)で十和田市民の 8.7%しか市民図書館を利用していない状況にあります。


また、人口 1 人当たりの貸出冊数が 2.9 冊と県平均(平成 2 5 年度 2.3 冊)を上回っていますが、全国平均(平成 2 5 年度 5.3 冊)からは大きく下回っております。

「家庭読書の日」普及・啓発については、平成 2 2 年 1 2 月に毎月第 4 日曜日を「家庭読書の日」を定めております。学校図書館協議会の協力や各種事業の実施により、児童書の貸出増にもつながり、「家庭読書の日」も徐々に定着しつつあると考えておりますが、さらなる普及、啓発には継続が必要なことから、現在の事業を続けながら、さらに「家庭読書の日」の啓発方法を検討していく必要があると考えております。

【参考資料 2】 第 4 回社会教育委員の会議における資料（H28. 3. 9）

平成 27 年度 学校における読書推進活動の取組 （市内小中学校図書館の現状に関する調査から一部抜粋）

【小学校】

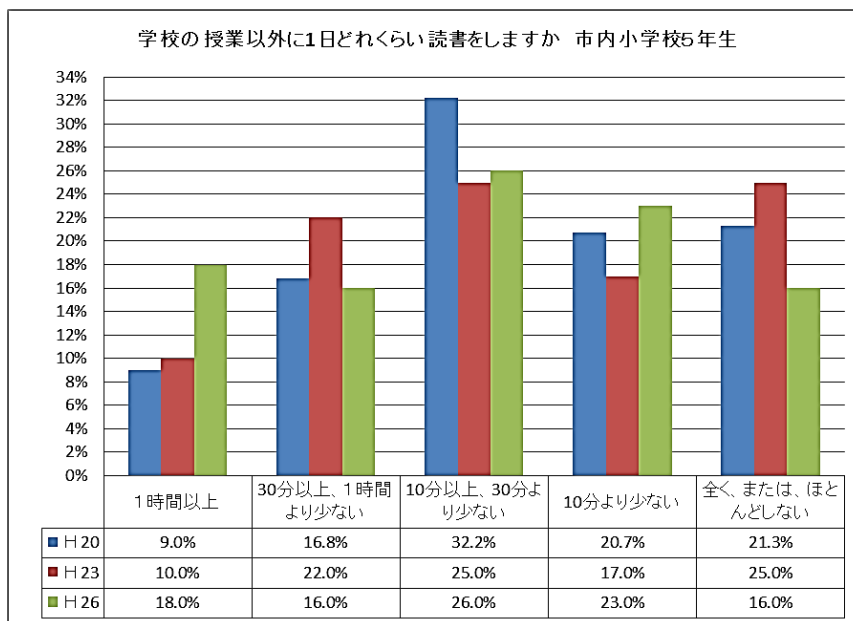
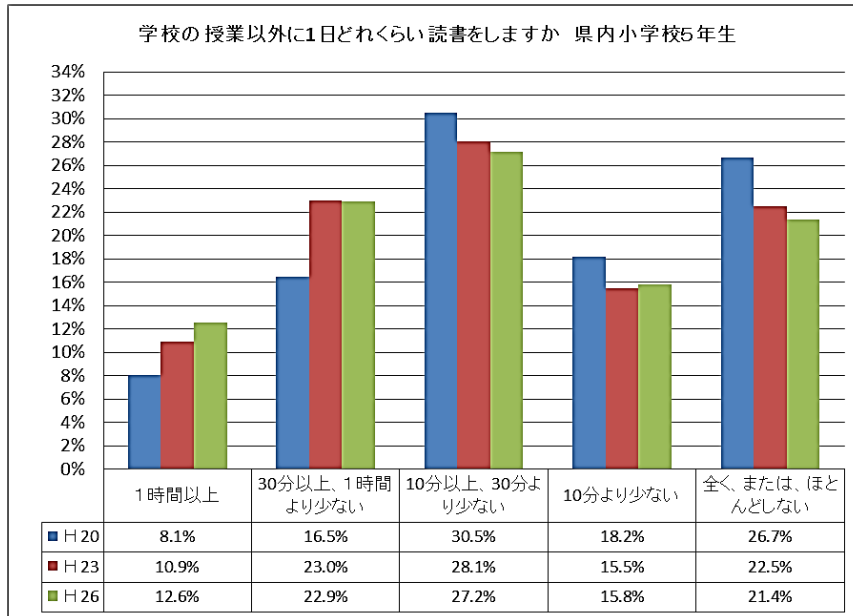
読書推進活動の取組	具体的な内容
読み聞かせ	<ul style="list-style-type: none">・ 図書ボランティアによる朝の読み聞かせ・ 教師による読み聞かせ（おすすめの本など）・ 児童による読み聞かせ・ 地域の方や PTA による読み聞かせ・ 保育園への読み聞かせボランティア活動・ 図書ボランティアによるお話会
読書タイム	<ul style="list-style-type: none">・ 朝読書・ 週 1 回の朝の読書タイム・ チャレンジタイムの 15 分間読書
委員会活動 学級活動	<ul style="list-style-type: none">・ 読む読むラリー・ スタンプラリー・ 図書ウォークラリー・ 図書ミニゲーム・ 図書クイズ・ 紙芝居セブテンバー・ 読書ビンゴ・ 読書貯金・ 図書便りの発行・ 子どもたちによるおすすめの本の紹介・ 図書ポスターの作成・ 読書カードの実施と多読賞などの表彰・ 月 1 回の学級文庫の入れ替え・ 読書におけるめあての設定・ 読書相談 
家庭への啓発	<ul style="list-style-type: none">・ 月 1 回の家読の実施・ 家庭読書のすすめ（家読カードの活用）・ 親子読書会の実施（学期に 2 回程度）・ 夏休み、冬休みの親子読書・ 親子読書感想への取組（夏休み期間）・ 長期休業中の本の貸し出し

【中学校】

読書推進活動の取組	具体的な内容
教科との関連	<ul style="list-style-type: none">・ 読書感想文（長期休業中の国語科の課題）・ 国語科と関連のある本の並行読書
読書タイム	<ul style="list-style-type: none">・ 朝読書・ 朝自習における読書・ 週3回の朝の読書タイム・ 図書室の本を読む朝読書週間（年2回）
委員会活動 学校行事	<ul style="list-style-type: none">・ 読書推進アクションの実施・ 図書室の本を読もうキャンペーンの実施・ 図書だよりでのおすすめの本の紹介・ 図書ポスターの作成・ 図書新聞の作成・ 図書人気ランキング・ 学級文庫の設置・ 文化祭でのブックトーク



青森県学習状況調査 （質問紙調査 「読書について」 小学校5年生）



①概況

- 県と市に共通して、学校の授業以外での読書時間は、10～30分が約3割で最も多い。また、この傾向は前回調査とあまり変わらない。
- 県と市に共通して、読書を「全く、または、ほとんどしない」児童は、6年間で減少しており、改善されている。

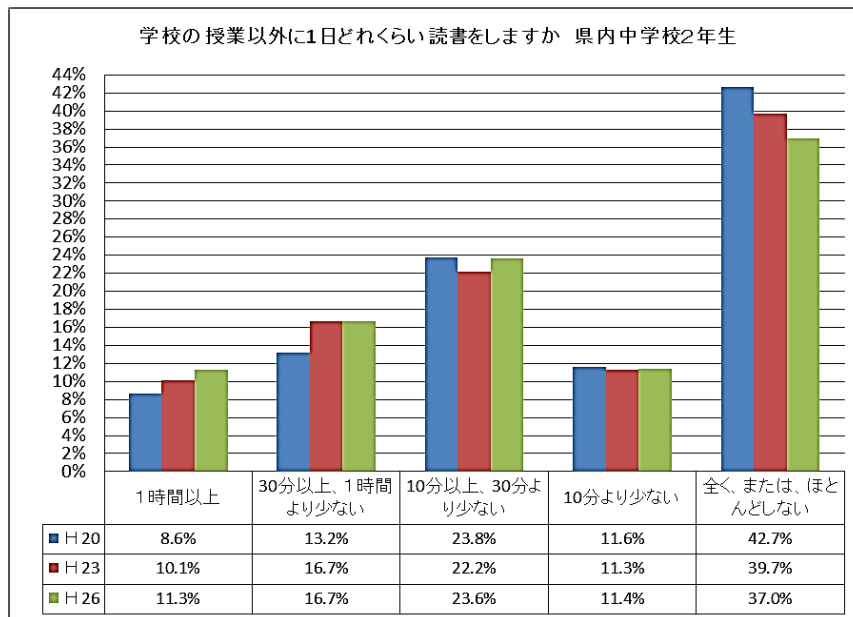
②課題

- 県では、1時間以上読書する児童の割合は約1割、市でも2割にとどまっている。
- 県と市に共通して、「全く、または、ほとんどしない」と回答した児童が約2割いる。

③今後の対応等

- 読み聞かせや国語の学習に図書紹介などの活動を取り入れるなど、読書することの楽しさや大切さを実感できる指導をする。
- 読書の時間を確保するよう、保護者にも協力を求める。

青森県学習状況調査 (質問紙調査 「読書について」 中学校2年生)



①概況

○県と市に共通して、平日の読書を「全く、または、ほとんどしない」と回答した割合が約4割で最も多く、次いで10～30分が約2～3割の順になっている。この傾向は、前回調査からあまり変わっていない。

②課題

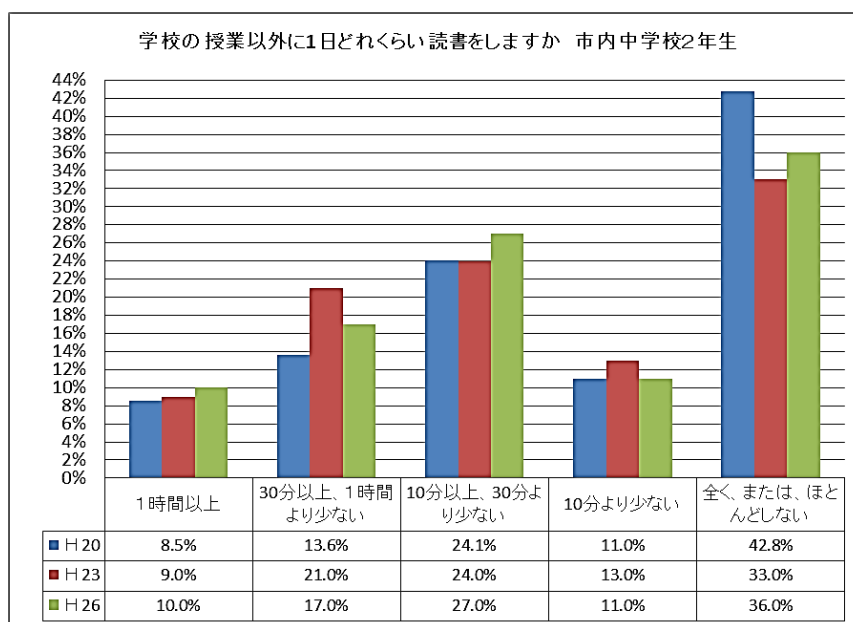
○県と市に共通して、平日に読書を「全く、または、ほとんどしない」と回答した生徒が約4割もいる。

③今後の対応等

○読書の大切さやよさについて、改めて生徒に指導するとともに、自主的に読書をするよう、指導の工夫をする。

○朝読書やブックトークなどの読書活動を日常の教育活動に取り入れる。

○読書の時間の確保に努めるよう、生徒や家庭に働きかける。



【参考資料 4】 第 6 回社会教育委員の会議における資料（研修）（H28. 9. 30）

平成 28 年度 十和田市教育懇談会「読書活動の推進」 （事例発表資料から一部抜粋）

【事例発表①】

八戸市 学校図書館支援事業「子どもと本をつなぐ学校図書館に」
八戸市教育委員会教育指導課 主任指導主事 佐々木宏恵

「八戸市における子どもと本を巡る様々な施策」

学校図書館

平成21年度事業開始（H13～20は文部科学省指定事業）
学校図書館ネットワーク事業
（担当：総合教育センター）
蔵書のデータベース化：検索が簡便に
蔵書のネットワーク化
学校間相互貸借と学校図書館支援図書を活用
情報の共有化
近隣の学校のグループ化による情報共有
平成28年度当初予算 7,425千円

学校図書館支援事業
・3名の学校司書を10校の指定校に派遣
（一人3～4校を担当）
・一人当たり年間170日間、派遣校で学校図書館運営に係る業務を通して学校図書館機能の向上と充実を目指す。
平成28年度当初予算 1,632千円

学校図書館担当者研修会の実施

子どもたちや
図書ボランティアと連携
した環境づくり

学校図書館出前講座

市立図書館との
連携

配本・団体貸出 移動図書館

蔵書の適正な管理
（計画的な購入と更新）

調べる学習コンクール

学校図書館協議会との連携

全児童対象 マイブック推進事業

- ・児童に市内の書店だけで利用できるクーポンを配付
- ・児童と保護者が書店に出かけて本を選び、本を購入
- ・購入した本は学校や家庭での読書活動に活用

平成26年度事業開始 平成28年度当初予算23,901千円

幼稚園や保育所（園）、認定こども園に
おける絵本の読み聞かせや読書の体験

3歳児（保護者）対象
読み聞かせキッズブック事業

乳児対象
ブックスタート

【平成27年度実績】

- ・配付児童数：11,952名
- ・使用割合：96.8%
- ・未使用割合：3.2%

読書に親しむ環境づくり

【事例発表②】

「深持小学校の読書活動の取組について」
 十和田市立深持小学校 校長 小笠原 千景

読書活動推進プロジェクト
 平成26年度～
 「日本一
 本好きな子どもがあふれる学校」
 を目指して

プロジェクト

プロジェクト
 基本方針1
 学校・家庭・地域が読書活動を中核にして
 連携しあう

プロジェクト
 基本方針1
 学校・家庭・地域が読書活動を中核にして
 連携しあう

学校

- 図書館の整備
- 図書館だより
- なかよしリーディング
- 読書ビンゴ月間

プロジェクト
 基本方針1
 学校・家庭・地域が読書活動を中核にして
 連携しあう

家庭

- 家庭読書の日の
- 読書貯金通帳
- 親子レンタル
- 親子読書感想文

家庭との連携
 『読書銀行貯金通帳』のきまり

- ★ 1 ページで1 ポイント貯まる
- ★ おうちの方が、
家庭読書の日に
読んだ分もポイント

家庭との連携
 ポイントが貯まると…？

- ★ 200ポイント
⇒ 「2冊貸し出し券」か「貸し出し優先券」
- ★★ 500ポイント
⇒ 「自分の写真入りしおり」か
「好きなイラスト入りしおり」
- ★★★ 1,000ポイント
⇒ 「賞状」 & 「読書くじ」

プロジェクト 基本方針2
 体験活動と読書活動を通して、
 語彙を豊かにし、表現力を高める

地域

- 方言で「昔っこ」を聞く会
- 読み聞かせボランティア
- コラボコンサート
- 作家によるお話会

地域との連携
 作家本人による
 お話会

志茂田景樹 先生
 読野和好 先生

よい子に読み聞かせ隊
 「もっと本好きになるお話会」

「おっと、痛快 絵本の
 読み語りの旅でい！
 深持の宿」

成果

- ◎ 読書量が増え、家庭での読書習慣も身に付いてきた
- 語彙・表現力が豊かになり、自分の思いを伝える体験も増えた
- 全校的に授業態度が落ち着き、集中力が向上した
- 国語の学力(特に「読む」「書く」力)が伸び、科学的な興味も高まった

課題

- ▼ 児童の興味や関心、体験をさらに豊かにし、読書の質を充実させたい
- ▼ 学校と家庭と地域が一層連携を深めることができるよう、広報したり、成果を発信したりしていきたい
- ▼ 保護者の図書館の利用をさらに活性化したい

【事例発表③】

「市民図書館における読書推進事業について」

十和田市民図書館 奉仕係長 藤井康弘

3. 主な読書推進事業(その1)

(1) 子ども読書活動の支援

- ① 小・中学校、保育園等へのセット貸出(41施設)
 - ・小・中学校(7校) ・老健施設等(5施設)
 - ・幼稚園、保育園等(29施設)
- ② 子どもビブリオバトル(2回)
- ③ 子ども司書養成講座(6回)
- ④ 絵本の読み聞かせ(17回)
 - ・3歳6ヶ月健診時(12回)
 - ・移動おはなし会(3回)
 - ・夏休み・冬休みおはなし会(2回)
- ⑤ 手づくり製本教室(1回)



3. 主な読書推進事業(その2)

(2) 他団体との連携事業

- ① おはなしのゆうびん屋さん(毎月第2・4土曜日)
 - 主催:十和田語りの会「こま草」
- ② 紙し(まい)劇場(毎月第1土曜日)
 - 主催:紙し(まい)倶楽部とわだ
- ③ 絵本の読み聞かせ(毎月第3土曜日)
 - 主催:わっこの会
- ④ 朗読のひとつき
 - 主催:点訳朗読奉仕会(随時)
- ⑤ 読書を楽しむ会(5月～3月、第2木曜日)
 - 主催:市読書団体連絡協議会
- ⑥ 【新規】図書館を使った調べる学習コンクール
 - 主催:市読書団体連絡協議会

4. 特徴的な読書推進の事例(その1)

(1) 子どもビブリオバトル(資料1)

(目的) 本の「紹介ゲーム」を実施することにより、本の面白さや魅力を知ってもらい、読書のきっかけを作り図書館の利用者を増加させる。

(内容) 参加者が自分の好きな本を3分間で紹介し、その後観覧者との2分間の質疑を行い、読みたくなった本に投票してもらい、「チャンピオン本」を決定する。

(対象) 小学校4年生～6年生

(日程) 第3回ビブリオバトル 8月3日(水)
第4回ビブリオバトル 12月(予定)

H27ビブリオバトル開催状況(第1回)



H28ビブリオバトル写真(第3回)



4. 特徴的な読書推進の事例(その2)

(2) 図書館を使った調べる学習コンクール(資料2)

(目的) 図書館資料をはじめ様々な情報を活用した調べる学習を通じて、児童・生徒自らが考え判断し、「表現する力」を育む。また、その活動の中で市民図書館や学校図書室などでの調べ方を体得し、図書館などを「有効に活用する力」を養うことを目的とする。

(内容) 参加者自らがそれぞれ学習のテーマを決め、市民図書館や学校図書室などを使って学習し、「学習レポート」として取りまとめ、当該学習コンクールに応募する。また、応募作品の中から、最優秀賞、優秀賞及び奨励賞を選定し、最優秀賞の作品については、『全国学習コンクール』に推薦して出品する。

(対象) 市内在住・在学の小・中学校の児童・生徒

(募集) 9月1日(木)から9月30日まで

図書館を使った調べる学習コンクール チャレンジ講座(7月29日開催)

・「調べる学習」の進め方とテーマの考え方や調べ方などの基本を学ぶ

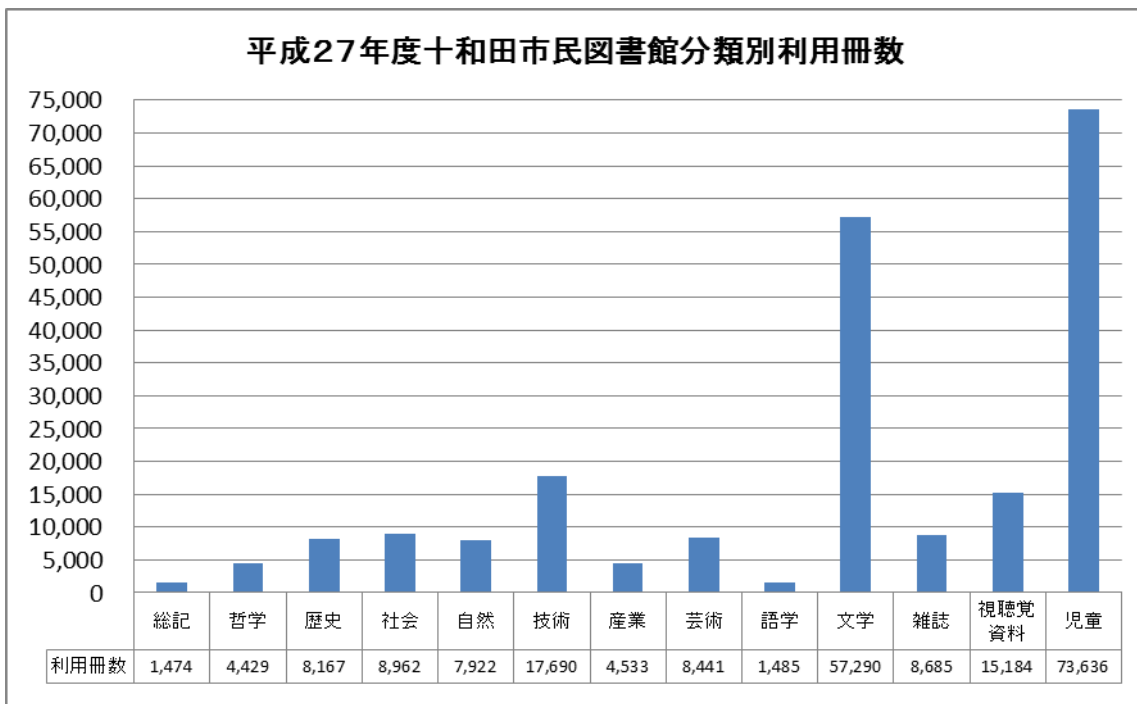
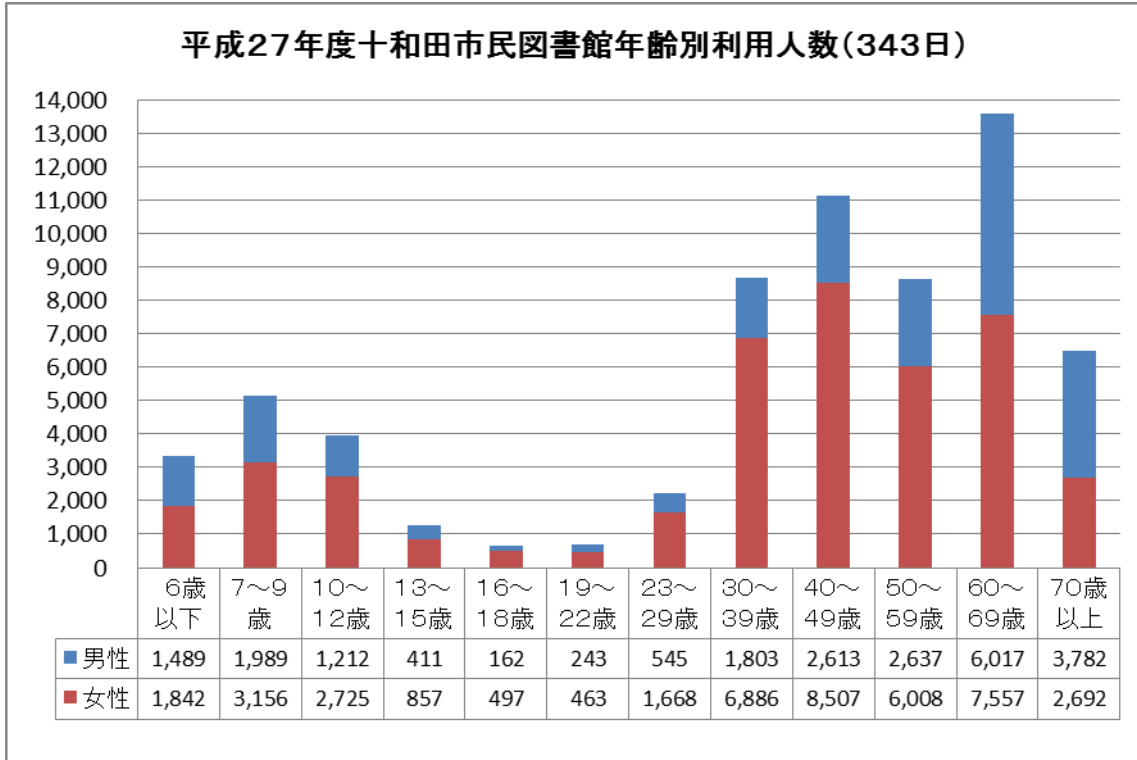
・受講者10名
小学4～6年生

・講師
江戸川区教育委員会
(事務局指導室)
学校図書館アドバイザー
藤田利江さん



【参考資料5】第7回社会教育委員の会議における資料（H29. 1. 30）

平成27年度 十和田市民図書館利用統計



十和田市社会教育委員

(平成29年3月現在)

議長	川崎 富康	十和田市文化協会会長
副議長	秋田 美智子	行政相談委員
委員	鈴木 仁	十和田市立東小学校長
//	瀧野 昭彦	十和田市立十和田湖小学校長
//	新戸部 一弘	十和田市立第一中学校長
//	對馬 祐之	青森県立十和田西高等学校長
//	岩間 貴	十和田市連合PTA会長
//	高谷 敦子	元ガールスカウト日本連盟トレーナー
//	氣田 信人	南地区コミュニティ推進協議会会長
//	佐々木 美紀子	家庭教育インストラクター

本市における「子どもから大人まで読書活動を推進するための取組」
～読書で人を育てるために～

発行：十和田市教育委員会スポーツ・生涯学習課

〒034-0392 十和田市大字奥瀬字中平70番地3

TEL:0176(72)2318(直通) Fax:0176(72)3123